# 第一種研究小委員会活動報告
# インフラ整備マネジメント小委員会

インフラ整備マネジメント小委員会名簿

| | | 氏名 | 勤務先 |
|---|---|---|---|
| 1 | 委員長 | 湊　隆幸 | 東海大学 |
| 2 | 副委員長 | 橋本賢 | 建設技術研究所 |
| 3 | 委員 | 豊福俊泰 | 九州産業大学 |
| 4 | 委員 | 大内雅博 | 高知工科大学 |
| 5 | 委員 | 秀島栄三 | 名古屋工業大学 |
| 6 | 委員 | 高野匡裕 | 建設省土木研究所 |
| 7 | 委員 | 宮　　亨 | 建設省土木研究所 |
| 8 | 委員 | 伊藤昌勝 | 北海道開発コンサルタント |
| 9 | 委員 | 久保周太郎 | 清水建設 |
| 10 | 委員 | 平島　寛 | 日経BP社 |
| 11 | 委員 | 井関英生 | 大成建設 |
| 12 | 委員 | 佐藤修 | パシフィックコンサルタンツ |
| 13 | 委員 | 吉川　雅人 | 三井建設 |
| 14 | 委員 | 諏訪　博己 | 前田建設工業 |
| 15 | 委員 | 歌津　洋一 | 前田建設工業 |
| 16 | 委員 | 五味宗雄 | 間組 |
| 17 | 委員 | 堤井孝則 | ビーイング |
| 18 | 委員 | 重松英造 | 建設技術研究所 |
| 19 | 委員 | 大堀勝正 | 建設技術研究所 |

## １．はじめに

本小委員会は、１９９６年の旧D1／D2小委員会による、「インフラの満足度論」および「インフラ制度論」の研究を基に、社会基盤整備に係るマネジメントの目的、手段、制約条件等の体系化を行うことを目的として発足された。つまり、社会基盤開発における経済性/社会性、環境、人々の役割と責任、執行プロセス/制度に関連する事項をバランスよく行うために必要な手段や制約条件等を、「形式知（言語、図等）に変換する」（大堀）ことが、本委員会活動の成果となる。

従来の土木工学においては、主に「丈夫で長持ちをする（構造形の工学）、およびいいものを作る(計画論)」(伊藤)の二点が主な関心であった。インフラ整備においては、さらに「上手につくる」（伊藤）ということも、考慮すべき事項である。社会基盤整備におけるマネジメントは、例えば、「インフラを整備・運用し、インフラの効用を一般国民に供給するという目的を達成するために、活動体を操作すること」(伊藤)したり、「情報交換を促進する」（宮）ことにより、活動体間のコミュニケーションを促進することであると定義できる。しかしながら、マネジメント的なアプローチに関する我が国

での研究の歴史は浅く、インフラ整備の経済性/社会性などの問題をバランスよく解決するための、人々の役割、制度/プロセスをシステム化するための、"マネジメント論"の構築が必要となる。

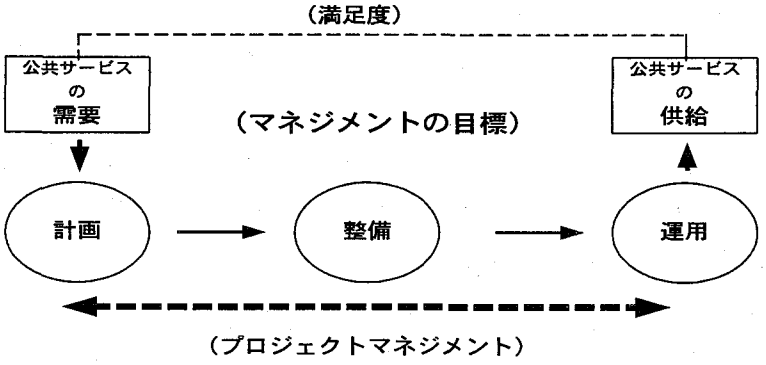
## 2．マネジメント体系化研究の視点

インフラ整備のマネジメント論を体系化する場合の視点としては、以下の事柄が考えられる。

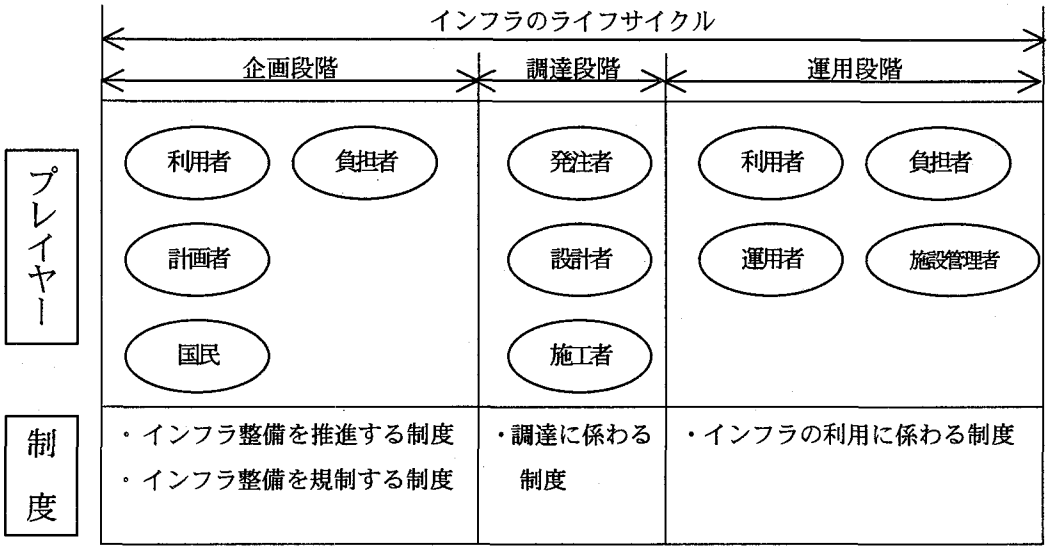
・用語、概念の整理および定義（全員）
・従来の要素技術（例えば、設計計算）との区別（重松）
・プロジェクトのライフサイクルからの考察（大堀など）
・事前評価と事後評価の連続性（橋本）
・複数のプロジェクトをベースにしたマネジメント論の構築（橋本）
・一般の人にもわかりやすい、評価軸の構築（平島）
・事業ノウハウの情報化（諏訪）
・グローバル化および少子化の下での人的資源の問題（久保など）

## 3．成果のイメージ

これまでの「インフラの満足度論」および「インフラ制度論」の研究から、インフラ整備マネジメント論の全体フレームは、以下に示すようにまとめられる。




図－1　インフラ整備マネジメント概念（伊藤）




図－２　　インフラ整備マネジメント論の領域（佐橋）

上記の研究成果も基に、本委員会の成果イメージは、縦軸にプロジェクトのライフサイクルを、横軸に社会基盤開発の目的（例えば、公正性や効率）あるいはインフラ整備に関連する人々をとり、マトリックスのアドレスに研究領域やツールなどを整理したようなものとなる。

表－１　インフラ整備マネジメント論の領域整理（宮）

| 目的 | | | 評　価 | | | 公　正 | | | 効　率 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | － | … | | | | | | |
| 時系列 | | | － | － | … | | | | | |
| 計画 | － | － | | | | | | | | |
| | … | － | | | | | | | | |
| 調達 | | … | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 運用 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 統合 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |